

# 秋田港湾事務所長より年頭の挨拶



国土交通省東北地方整備局  
秋田港湾事務所 所長 遠藤源

新たな年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より港湾行政の遂行に当たり、格別のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今、国土交通省では、社会資本の整備による地域の経済や産業、雇用の発展を目に見える形で、「ストック効果」として、地域の皆様に示していこうとしています。港湾は、物流の拠点であり、地域の産業活動の基盤として活用され役立っています。

秋田県内には、能代港、船川港、秋田港の3つの重要港湾があります。リサイクル、エネルギーの港湾、防災の港湾、産業物流の中心となる港湾、など、それぞれの特色を活かして発展しています。

昨年は、明るい話題が沢山ありました。

秋田港開港50周年、秋田港国際コンテナ定期航路開設20周年を迎えました。単なる20周年ではなくて取扱貨物量を着実に伸ばしての20周年です。国際コンテナターミナルが拡張され、ガントリークレーンも2基体制に増強され、経済の停滞や人口減少の中でも秋田を元気付ける明るい話題となりました。また、クルーズ船も能代港に1隻、船川港に1隻、秋田港に14隻、寄港しました。その内の5隻が豪華外航クルーズ船で、多くの外国人の乗客が秋田県内の観光を楽しみました。

さらに港湾での大きな話題としてエネルギー関連の動きがあります。能代火力3号機の事業化、秋田港でのバイオマス発電の立地や石炭火力発電の動き、秋田県の海岸線には次々と風力発電の設置が進み、各港湾に風力発電設備が荷揚げされ設置場所へと運ばれていきました。そして、洋上風力発電への取り組みも始動し、秋田が再生可能エネルギーの先進地になろうとしています。

当事務所におきましても、このような港湾での活動を支え、より使いやすい港を目指して、静穏度向上のための防波堤の整備など事業の推進に努める所存です。今年も引き続き港湾の利用促進や地域の安全・安心の確保に努めて参りますので、皆様方のより一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後になりますが、地域の益々の活性化と、皆様方のより一層のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。